

大学番号：国039

注3

意見伺い

[平成28年度設置]

計画の区分：学部設置

注1

福井大学 国際地域学部

注2

【意見伺い】設置に係る設置計画履行状況報告書

国立大学法人 福井大学
平成28年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名	総合戦略部門経営戦略課
職名・氏名	キカクカリチョウ サカイ ヨシミ 企画係長・坂井 佳美
電話番号	0776-27-8055
（夜間）	0776-27-8055
F A X	0776-27-8518
e-mail	sskikaku-k@ad.u-fukui.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には設置時の旧名称を記載し、その下欄に（ ）書きにて、現在の名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(◇◇学部(平成◇◇年度より学部名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- ・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- ・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- ・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- ・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

目次

国際地域学部

<国際地域学科>	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	12
4. 既設大学等の状況	13
5. 教員組織の状況	16
6. 留意事項等に対する履行状況等	35
7. その他全般的事項	38

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

国立大学法人 福井大学

(2) 大学名

福井大学

(3) 大学の位置

〒910-8507

福井県福井市文京3丁目9番1号

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
学長	(マミ ミツミ) 眞弓 光文 (平成25年4月)		
学部長	(テラカ ヒデオ) 寺岡 英男 (平成28年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 平成26年度に報告済の内容 → (26)

平成28年度に報告する内容 → (28)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・「事前伺い」により設置された学部等については、本項目を記載する必要はありません。

(5) 調査対象学部等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部学科または研究科の専攻等, 定員を定めている組織ごとに記入してください (入試区分ごとではありません)。
 ・ なお, 課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は, 法令上規定されている最小単位 (大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」) でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。
 ・ 様式は, 平成25年度開設の4年制の学科の場合 (平成28年度までの4年間) ですが, 開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が3年以下の場合には欄を削除し, 5年以上の場合には, 欄を設けてください。)

(5) - ① 調査対象学部等の名称, 定員

調査対象学部等の名称 (学位)	設置時の計画				備考
	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
国際地域学部 国際地域学科 学士 (国際地域)	4 年	60 人	0 年次 人	240 人	

- (注) ・ 定員を変更した場合は, 「備考」に変更前の人数, 変更年月及び報告年度を () 書きで記入してください。
 ・ 学生募集停止を予定している場合は, 「備考」にその旨記載してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	対象年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度		平均入学定員 超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
A 入学定員	60 (-) [-]										1.06倍	
志願者数	227 (-) [-]	- (-) [-]										
受験者数	152 (-) [-]	- (-) [-]										
合格者数	73 (-) [-]	- (-) [-]										
B 入学者数	64 (-) [-]	- (-) [-]										
入学定員超過率 B/A	1.06											

- (注) ・ 数字は, 平成28年5月1日現在の数字を記入してください。
 ・ () 内には, 編入学の状況について**外数**で記入してください。なお, 編入学を複数年次で行っている場合には, (())書きとするなどし, その旨を「備考」に付記してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ []内には, 留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ 留学生については, 「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格 (いわゆる「留学ビザ」) により, 我が国の大学 (大学院を含む), 短期大学, 高等専門学校, 専修学校 (専門課程) 及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 ・ 短期交換留学生など, 定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は, 春季入学とその他の学期 (春季入学以外の学期区分を設けている場合) に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は, その他の学期欄は「-」を記入してください。また, その他の学期に入学定員を設けている場合は, 備考欄にその人数を記入してください。
 ・ 「入学定員超過率」については, **各年度の春季入学とその他を合計した入学定員, 入学者数で算出**してください。なお, 計算の際は**小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位まで記入**してください。
 ・ 「平均入学定員超過率」には, 開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお, 計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

学 年	平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	[-] (-) 64	[-] (-) -	[] [] () ()	[] [] () ()	[] [] () ()	[] [] () ()	[] [] () ()	[] [] () ()	
2年次	/		[] [] () ()	[] [] () ()	[] [] () ()	[] [] () ()	[] [] () ()	[] [] () ()	
3年次	/		/		[] [] () ()	[] [] () ()	[] [] () ()	[] [] () ()	
4年次	/		/		/		[] [] () ()	[] [] () ()	
計	[-] (-) 64	[] [] () ()	[] [] () ()	[] [] () ()	[] [] () ()	[] [] () ()	[] [] () ()	[] [] () ()	

- (注) ・ 数字は、平成28年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ []内には、留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。
 - ・ ()内には、**留年者の状況**について、**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。

(5) - ④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	入学者数(b)	退学者数(a)	退学者数(内訳)			主な退学理由	入学者数に 対する退学者数 の割合 (a/b)
			退学した年度	退学者数	退学者数の うち留学生数		
平成28年度 入学者	64 人	0 人	平成25年度	人	人		0 %
			平成26年度	人	人		
			平成27年度	人	人		
			平成28年度	人	人		
平成29年度 入学者	人	0 人	平成26年度	人	人		#DIV/0! %
			平成27年度	人	人		
			平成28年度	人	人		
平成30年度 入学者	人	0 人	平成27年度	人	人		#DIV/0! %
			平成28年度	人	人		
平成31年度 入学者	人	0 人	平成28年度	人	人		#DIV/0! %
合 計	64 人	0 人					0 %

(注)・数字は、平成28年5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各年度の入学者数については、該当年度当初に入学した人数を記入してください。(途中で退学者がいた場合でも、その退学者数を減らす必要はありません。)
- ・各年度の退学者数については、退学年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記入してください。
- ・短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
- ・「入学者数に対する退学者数の割合」は、【当該対象年度の入学者のうち、平成28年5月1日現在までに退学した学生数の合計】を、【当該対象年度の入学者数】で除した割合(%)を記入してください。その際、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

2 授業科目の概要

<国際地域学部 国際地域学科>

(1) 授業科目表

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
入門科目	大学教育入門セミナー	1①・②	2			3	4	2			
	基礎教育科目										
基礎教育科目	情報処理基礎	1①・②	2				1				
	英語 I	1①	1						1		兼 2
	英語 II	1①	1								兼 3
	英語 III	1①	1				1				兼 2
	英語 IV	1①	1						2		兼 1
	英語 V	1②	1						1		兼 2
	英語 VI	1②	1								兼 3
	英語 VII	1②	1				1				兼 2
	英語 VIII	1②	1						2		兼 1
	ドイツ語 I	2①		1			1				
	ドイツ語 II	2②		1			1				
	ドイツ語 III	2③		1			1				
	ドイツ語 IV	2④		1			1				
	フランス語 I	2①		1		1					
	フランス語 II	2②		1		1					
	フランス語 III	2③		1			1				
	フランス語 IV	2④		1			1				
	中国語 I	2①		1			1				
	中国語 II	2②		1			1				
	中国語 III	2③		1							兼 1
	中国語 IV	2④		1							兼 1
	日本語 A	3①・②		1							兼 1
	日本語 B	3③・④		1							兼 1
	日本語 C	3①・②		1							兼 1
	日本語 D	3③・④		1							兼 1
	日本語 E	3①・②		1							兼 1
	日本語 F	3③・④		1							兼 1
	日本語 G	3①・②		1							兼 1
	日本語 H	3③・④		1							兼 1
共通教育科目	<地域コア科目群>										
	ものづくり・産業振興・技術経営分野										
	現代社会とビジネス	2①・②		2							兼 1
	現代社会とキャリア・アントレプレナーシップ	2③・④		2							兼 1
	科学技術と社会	2①・②		2							兼 1
	衣生活の現状	2①・②		2							兼 1
	ロボットの知能と学習	2①・②		2							兼 1
	進化する繊維の技術	2①・②		2							兼 3
	現場で役立つ機器分析	2①・②		2							兼 1
	半導体の科学	2③・④		2							兼 1
	繊維の世界	2③・④		2							兼 5
	新素材の世界	2③・④		2							兼 3
	地方創生福井モデルの事例研究－鯖江学－	2③・④		2							兼 1
	持続可能な社会・環境づくり分野										
共通教養科目	こども環境学入門	2③・④		2							兼 1
	環境問題と社会	2①・②		2							兼 0
	まちづくり論	2①・②		2							兼 4
	都市と建築の環境	2③・④		2							兼 2
	科学技術と環境	2①・②		2							兼 3
	科学技術と倫理	2③・④		2							兼 1
	地域の局地気象	2①・②		2							兼 1
	自然史と生物	2①・②		2							兼 1
	日本海地域の自然と環境	2①・②		2							兼 1
	地球の環境	2③・④		2							兼 1
	福井の経済と経営者	2①・②		2							兼 1
	コミュニティと住民組織	2①・②		2				1			兼 1
	地域科学コミュニケーション	2①・②		2							兼 2

	これからの地方創生と経営学	2①・②	2			兼 1	20C+事業に伴う地域志向科目の充実のため(28)
	ふくいを知る・見る・考える	2①・②	2			兼 1	20C+事業に伴う地域志向科目の充実のため(28)
	原子力・エネルギー分野						
	電磁波と物質	2①・②	2			兼 4	
	エネルギー科学	2③・④	2			兼 1	
	生活の中の熱とエネルギー	2③・④	2			兼 1	
	熱と流れ	2③・④	2			兼 2	
	エネルギーと環境	2③・④	2			兼 1	
	災害の科学	2③・④	2			兼 6	
	災害ボランティア論	2③・④	2			兼 1	
	東日本大震災をどう受け止めるか	2③・④	2	1		兼 4	
	放射線利用－医学と産業－	2①・②	2			兼 6	
	地域の防災・危機管理	2①・②	2			兼 3	
	<教養教育科目群>						
	人間理解・言語コミュニケーション分野						
	批判的思考を伸ばす	2①・②	2			兼 1	
	「社会がわかる」とは?	2①・②	2			兼 1	
	心を探る(人間関係論)	2①・②	2			兼 1	
	こころの発達と健康	2①・②	2			兼 1	
	人間の科学特別演習A(教育学)	2③・④	2			兼 1	
	人間の科学特別演習B(心理学)	2③・④	2			兼 3	
	人間の科学特別演習C(障害児)	2③・④	2			兼 2	
	子どもと学校	2③・④	2			兼 1	
	教えることと学ぶこと	2③・④	2			兼 1	
	生まれること、産むこと	2①・②	2			兼 1	
	健康科学・医科学概論	2③・④	2			兼 15	
	ニューススポーツと健康生活	2①・②	2			兼 1	
	アウトドアスポーツとバリアフリー	2①・②	2			兼 1	
	健康メディアリテラシー	2③・④	2			兼 1	
	ネット型球技(バレーボール)指導の理論と実際	2③・④	2			兼 1	
	哲学的人間学Ⅰ	2③・④	2			兼 1	
	哲学的人間学Ⅱ	2③・④	2			兼 1	
	日本思想	2①・②	2			兼 1	
	宗教と哲学	2①・②	2			兼 1	
	哲学入門	2①・②	2	1		兼 1	
	哲学とは何か	2③・④	2			兼 1	
	スピーキングⅠ	2①・②	2		1	兼 1	
	リスニングⅡ	2①・②	2			兼 1	
	ライティングⅠ	2①・②	2			兼 1	
	ライティングⅡ	2③・④	2		1	兼 1	
	リーディング	2③・④	2			兼 1	
	ヨーロッパの言語事情	2①・②	2	1		兼 1	
	多文化コミュニケーションA(異文化コミュニケーションA)	2③・④	2			兼 1	
	多文化コミュニケーションB(日本語コミュニケーションB)	2①・②	2			兼 1	
	多文化コミュニケーションC(異文化コミュニケーションC)	2①・②	2			兼 1	
	言語生活論	2①・②	2			兼 1	
	言語表現	2③・④	2			兼 1	
	応用日本語Ⅰ	2①・②	2			兼 1	
	応用日本語Ⅱ	2③・④	2			兼 1	
	中国語の世界Ⅰ	2①・②	2			兼 1	
	中国語の世界Ⅱ	2③・④	2			兼 1	
	中国語の世界Ⅲ	2①・②	2	1		兼 1	
	中国語の世界Ⅳ	2③・④	2		1	兼 1	
	ドイツ語の世界Ⅰ	2①・②	2			兼 1	
	ドイツ語の世界Ⅱ	2③・④	2			兼 1	
	ドイツ語の世界Ⅲ	2①・②	2			兼 1	
	ドイツ語の世界Ⅳ	2③・④	2			兼 1	
	フランス語の世界Ⅰ	2①・②	2		1	兼 1	
	フランス語の世界Ⅱ	2③・④	2		1	兼 1	
	フランス語の世界Ⅲ	2①・②	2			兼 1	
	フランス語の世界Ⅳ	2③・④	2			兼 1	
	歴史・文化理解分野						
	東洋史A(「東アジア世界」と日本)	2①・②	2			兼 1	
	東洋史B(近代日本とアジア認識)	2③・④	2			兼 1	
	日本史(中世社会の転換)	2③・④	2			兼 1	
	日本史(近世社会の展開)	2①・②	2			兼 1	
	発展途上国の人間地生態	2①・②	2	1		兼 1	
	地図に見る歴史と景観	2①・②	2			兼 1	
	ラテン語とキリスト教	2①・②	2			兼 1	
	アメリカの文化	2③・④	2			兼 1	
	フランス文学入門	2①・②	2	1		兼 1	
共通教育科目	共通教養科目						

外国語科目	ドイツ言語文化講読	3①・②		2		1								
	比較文化論演習	3③・④		2		1								
	<フランス語>													
	現代事情講読	3①・②		2		1								
	フランス言語文化講読	3③・④		2	1									
	フランス文学講読	4①・②		2	1									
	<中国語>													
	中国語文章表現	2③・④		2		1								
	中国語音声理解	2③・④		2		1								
	中国語音声表現	2③・④		2		1								
	応用中国語Ⅰ	3③・④		2		1								
	応用中国語Ⅱ	4①・②		2		1								
	リサーチ・リテラシー科目	リサーチ入門（J）	1①・②		2		1							
		リサーチ入門（E）	1①・②		2								兼 1	
		統計入門	1③・④		2								兼 1	
		情報技術基礎	1③・④		2			1						
		データサイエンスⅠ	2①・②		2									兼 1
		データサイエンスⅡ	2③・④		2			1						
		社会調査論	2③・④		2		1		1					
地域データ分析		2③・④		2		1								
量的データ分析		3①・②		2			1							
質的調査法（J）		3①・②		2		1		1						
質的調査法（E）	2③・④		2			1		3						
日本理解科目	日本語学概論	2①		2								兼 1		
	コミュニケーションのための日本語教育論	2②	2									兼 1		
	日本史概説	2①・②		2								兼 1		
	日本の近代文学	2③・④		2								兼 1		
	日本の学校教育	3③・④		2		1								
総合科学科目	<生活環境分野>													
	環境教育論	2③・④		2								兼 1		
	地域計画論	2③・④		2				1						
	地域環境論	3①・②		2								兼 1		
	子どもと住環境	3①・②		2				1						
	<科学技術分野>													
	放射線安全工学	2③・④		2								兼 5		
	放射線の生物影響と防護	3①・②		2								兼 2		
	原子力・災害関連法令と国際的關係	4③・④		2								兼 1		
	知的財産の基礎知識	2③・④		2								兼 1		
	ベンチャービジネス概論	3①・②		2								兼 1		
	フロントランナー	4③・④		2								兼 2		
	ものづくり基礎工学	3③・④		2								兼 1		
	建築計画各論第一	2③・④		2								兼 1		
	建築計画各論第二	3①・②		2								兼 1		
	建築史	4①・②		2								兼 1		
	資源エネルギー概論	4①・②		2								兼 1		
	<医療分野>													
	医療概論Ⅰ	3①・②		2								兼 33	退職により教員を見直し、当該科目は複数名で担当のため、後任なし（28）	
	医療概論Ⅱ	3③・④		2								兼 1		
医療特論Ⅰ	3③・④		2								兼 2			
医療特論Ⅱ	4①・②		1								兼 8			
医療特論Ⅲ	4①・②		2								兼 1			
課題探求プロジェクト科目	課題探求プロジェクト基礎A	1③	2			6	5	4						
	課題探求プロジェクト基礎B	1④	2			6	4		3					
	課題探求プロジェクトⅠ	2①・②	2			11	8	4	3					
	課題探求プロジェクトⅡ	2③・④	2			9	9	4	1					
	課題探求プロジェクトⅢA	3①・②	2			10	9	4						
	課題探求プロジェクトⅢB	3③・④	2			10	8	4	3					
	課題探求プロジェクトⅢC	4①・②	2			4	6							

専門教育科目	現代社会科学目(入門)	法学概論	1③・④	2		1							
		政治学概論	1③・④	2	1								
		経済理論(ミクロ)	1③・④	2			1						
		経済理論(マクロ)	2①・②	2			1						
		経営学概論	2①・②	2			1						
		社会学概論	2①・②	2	1								
		生涯学習概論	2①・②	2		1							
	現代社会科学目(発展)	<法学, 政治学系>											
			民法(総則)	2①・②	2		1					兼 1	
			民法(物権・債権)	3①・②	2		1					兼 1	
			民法(親族・相続)	3①・②	2		1					兼 1	
			行政法Ⅰ(総論)	2①・②	2							兼 1	
			行政法Ⅱ(行政救済法)	3①・②	2							兼 1	
			地方自治法	2③・④	2							兼 1	
			社会保険法	3①・②	2							兼 1	
			労働法	3③・④	2							兼 1	
		<経済, 経営学系>											
			産業地理学	2③・④	2	1							
			経済政策論	2③・④	2			1					
			会計学	2③・④	2	1							
		アントレプレナーシップ論	3①・②	2							兼 1		
		観光学	3①・②	2							兼 1		
		マーケティング論	4①・②	2							兼 1		
<社会学系>													
	文化資源論	2③・④	2			1							
	都市コミュニティ論	2③・④	2			1							
	ジェンダー論入門	2③・④	2		1								
	人間関係論	3①・②	2							兼 1			
	農村社会論	3③・④	2	1									
	メディア論	4①・②	2							兼 1			
	社会教育計画	4①・② 4③・④	2		1						教育効果向上のため(28)		
現代社会科学目(地域)		地域経済論	3①・②	2	1								
		都市と農村	3①・②	2	1								
		住民組織論	3①・②	2			1						
		男女共同参画学習論	3①・②	2		1							
		地域福祉論	3①・②	2							兼 1		
		地域情報システム	3③・④	2		1							
		地域文化マネジメント	3③・④	2			1						
		福井地域の歴史	3③・④	2	1						兼 1		
現代社会科学目(国際)		国際政治学	2①・②	2	1								
		国際関係論	2②	2	1								
		国際政策	2③・④	2	1								
		ドイツの現代事情	2①・②	2		1							
		国際コミュニケーション論	3③・④	2	1								
多文化理解科目	<語学, 言語とリテラシー>												
		留学セミナー	2③・3①	1	1								
		弁論法	1③・④	2							兼 1		
		世界共通語としての英語	2①・②	2	1								
		言語学入門	2①・②	2	1			1					
		英語圏の言語と文化	2③	2	1								
		日本語の変遷	2③・④	2				1					
		アメリカ英語入門	3①・②	2		1							
		EFL学習者のための音声学・音韻論入門	3①・②	2		1							
		第二言語習得	3①・②	2				1					
		日英対照言語学	3③・④	2	1								
		心理言語学	4①・②	2					1				
	<人間科学・社会科学>												
		異文化コミュニケーション	1③・④	2				1			兼 2		
		発達心理学	2③・④	2							兼 0+	退職による教員を見直し, 後任補充予定(28)	

専門教育科目	多文化理解解科目	人間の発達	3③・④	2						兼 0	退職による教員を見直し、後任補充予定 (28)	
		教育におけるゲーム	4①・②	2				1				
		教育における社会正義の問題	2①・②	2			1					
		教育社会学	3③・④	2			1					
		比較教育学	3③・④	2				1				
		<人文科学>										
		日本の伝統文化入門	2①・②	2								兼 1
		イギリス表象文化	2③・④	2		1						
		民族音楽学	1③・④	2								兼 1
		西洋における人道的伝統	3③・④	2		1						
		<文学>										
		アメリカの短編小説	2③・④	2					1			
		アメリカ文学の諸トピックス	3①・②	2					1			
		アジア系アメリカ文学	3①・②	2					1			
		イギリス文学	3③・④	2		1						
		アイルランドの文学	4①・②	2								兼 1
		比較文学	4①・②	2					1			
		文学に見られる女性	4③・④	2								兼 1
		<多言語・多文化>										
		比較文化論	2①・②	2			1					
		ドイツ文学	2③・④	2			1					
		フランス文学	3③・④	2		1						
		ヨーロッパの表象文化	2①・②	2		1	1					
		国際文化交流論	2③・④	2			1					
		中国文学	3①・②	2			1					
		中国語学概論	3①・②	2			1					
		現代中国語講読	3①・②	2			1					
		中国文化特殊講義	3③・④	2			1					
中国文化演習	4①・②	2			1							
卒業研究セミナー	4①	1			5	3	4					
卒業研究	4①~④	6			12	9	4	3				

- (注) ・ 設置計画書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ 設置時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。その上で、前年度報告時(平成28年度に設置された大学等は設置時)より変更されているものは赤字で見え消し修正し、「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。
- なお、昨年度の報告書において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
- ・ 兼任、兼任の教員が担当する授業科目については、備考欄に担当する教員数を「兼〇」と記入してください。
- ・ 授業科目を追加又は内容を変更する場合、専任教員が担当するため教員審査が必要なものについては、「専任教員採用等設置計画変更書」の審査予定年月等を「備考」に記入してください。(今後審査を受ける場合には、「平成〇年〇月 提出予定」と記入してください。)
- ・ 「配当年次」について、設置計画時に開講時期を記入する必要がなかった学部等(平成19年度設置以前)についても、設置時の状況を黒字で記入してください。また、前年度報告時より修正があれば、赤字で見え消し修正をしてください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計	必修	選択	自由	計	
科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	
23	282	10	315	23	285	10	318	
				[0]	[3]	[0]	[3]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[]内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)
- ・ 資格に関する課程など、別課程としている授業科目については算入する必要はありません。

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については、記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目と廃止科目の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計}} = \boxed{0.00}$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位までを記入してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考			
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	駐車場の整備に伴う校 地面積の見直し及び 借用団地を返却したた め(28)			
	校舎敷地	267,651㎡ 297,251㎡	0㎡	0㎡	267,651㎡ 297,251㎡				
	運動場用地	94,273㎡	0㎡	0㎡	94,273㎡				
	小 計	361,924㎡ 391,524㎡	0㎡	0㎡	361,924㎡ 391,524㎡				
	そ の 他	181,060㎡ 152,942㎡	0㎡	0㎡	181,060㎡ 152,942㎡				
	合 計	542,984㎡ 544,466㎡	0㎡	0㎡	542,984㎡ 544,466㎡				
(2) 校 舎	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	附属病院建物を校舎面 積から削除及び校舎新 築のため(28)				
	138,456㎡ 138,611㎡	0㎡	0㎡	138,456㎡ 138,611㎡					
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体			
	71室	99室	426室	18室 (補助職員 3人)	4室 (補助職員 3人)				
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数					
	国際地域学部国際地域学科			31 室					
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等 の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機 械 ・ 器 具 点	標 本 点	学部単位での特 定不能なため、 大学全体の数	
	国際地域学部	676,470 [203,071] (644,470 [199,071])	35,620 [6,610] (35,614 [6,603])	17,650 [900] (17,650 [900])	6,326 (5,326)	6,000 (5,893)	1 (1)		
	計	676,470 [203,071] (644,470 [199,071])	35,620 [6,610] (35,614 [6,603])	17,650 [900] (17,650 [900])	6,326 (5,326)	6,000 (5,893)	1 (1)		
(6) 図 書 館	面 積		閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		大学全体		
	8,653㎡		827		788,333				
(7) 体 育 館	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要						
	3,929㎡		屋外球技コート、プール、野球場						
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	国費(運営費交付金) による
		教員1人当り研究費等	— 千円	— 千円	図書購入費	— 千円	— 千円	— 千円	
		共同研究費等	— 千円	— 千円	設備購入費	— 千円	— 千円	— 千円	
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円		
学生納付金以外の維持方法の概要									

(注) ・ 設置時の計画を、設置計画書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)

- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
- ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には平成28年5月1日現在の数値を記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(28)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
- ・ 「事前伺い」により設置された学部等については、本項目を記載する必要はありません。

4 既設大学等の状況

大学の名称	福井大学								備考
既設学部等の名称	修業 年限	入定 学員	編入学 定員	収定 容員	学位又 は称号	平均入 学定員 超過率	開 設 年 度	所 在 地	
【学部】	年	人	年次 人	人		倍			
教育地域科学部									
学校教育課程	4	-	-	-	学士 (教育学)	-	平成11年度	福井県福井市文京3 丁目9番1号	平成28年度から 学生募集停止
地域科学課程	4	-	-	-	学士 (地域科学)	-	平成20年度		〃
教育学部									
学校教育課程	4	100	-	400	学士 (教育学)	1.06	平成28年度	福井県福井市文京3 丁目9番1号	平成28年度から 学部名称変更
医学部									
医学科	6	110	2年次 5	685	学士 (医学)	0.99	昭和55年度	福井県吉田郡永平寺町松岡下 合月23号3番地	
看護学科	4	60	-	240	学士 (看護学)	0.98	平成9年度		
工学部									
機械工学科	4	-	-	-	学士 (工学)	-	平成11年度	福井県福井市文京3 丁目9番1号	平成28年度から 学生募集停止
電気・電子工学科	4	-	-	-	〃	-	〃		〃
情報・メディア工学科	4	-	-	-	〃	-	〃		〃
建築建設工学科	4	-	-	-	〃	-	〃		〃
材料開発工学科	4	-	-	-	〃	-	〃		〃
生物応用化学科	4	-	-	-	〃	-	〃		〃
物理工学科	4	-	-	-	〃	-	〃		〃
知能システム工学科	4	-	-	-	〃	-	〃		〃
機械・システム工学科	4	155	3年次 10	640	学士 (工学)	1.03	平成28年度		
電気電子情報工学科	4	125	3年次 20	540	〃	1.05	〃		
建築・都市環境 工学科	4	60	3年次 10	260	〃	1.03	〃		
物質・生命化学科	4	135	-	540	〃	1.02	〃		
応用物理学科	4	50	-	200	〃	1.06	〃		

国際地域学部 国際地域学科	4	60	-	240	学士 (国際地域)	1.06	平成28年度	福井県福井市文京3丁目9番1号	
【大学院】 教育学研究科 (修士課程) 学校教育専攻	2	30	-	60	修士 (教育学)	0.39	平成20年度	福井県福井市文京3丁目9番1号	平成28年度から入学定員変更(12→30)
教科教育専攻 (教職大学院の課程) 教職開発専攻	2	-	-	-	修士 (教育学)	-	〃		平成28年度から学生募集停止
	2	37	-	74	教職修士 (専門職)	1.09	平成20年度		平成28年度から入学定員変更(30→37)
医学系研究科 (修士課程) 看護学専攻	2	12	-	24	修士 (看護学)	1.00	平成13年度	福井県吉田郡永平寺町松岡下合月23号3番地	
(博士課程) 統合先進医学専攻	4	25	-	100	博士 (医学)	1.00	平成25年度		平成25年度から学生募集停止
医科学専攻	4	-	-	-	〃	-	平成20年度		〃
先端応用医学専攻	4	-	-	-	〃	-	〃		〃
生化系専攻	4	-	-	-	〃	-	昭和61年度		平成20年度から学生募集停止
工学研究科 (博士前期課程) 機械工学専攻	2	32	-	64	修士 (工学)	1.38	平成15年度	福井県福井市文京3丁目9番1号	平成25年度から入学定員変更(25→32)
電気・電子工学専攻	2	30	-	60	〃	1.14	〃		平成25年度から入学定員変更(20→30)
情報・システム工学専攻	2	31	-	62	〃	1.12	〃		平成25年度から入学定員変更(23→31)
建築建設工学専攻	2	28	-	56	〃	0.81	〃		平成25年度から入学定員変更(22→28)
材料開発工学専攻	2	24	-	48	〃	1.20	〃		
生物応用化学専攻	2	21	-	42	〃	0.97	〃		
物理工学専攻	2	18	-	36	〃	1.08	〃		平成25年度から入学定員変更(14→18)
知能システム工学専攻	2	27	-	54	〃	1.03	〃		
繊維先端工学専攻	2	15	-	30	〃	1.43	平成25年度		
原子力・エネルギー安全工学専攻	2	27	-	54	〃	1.14	平成16年度		

(博士後期課程)									
総合創成工学専攻	3	22	—	66	博士 (工学)	1.20	平成25年度	福井県福井市文京 3丁目9番1号	
物質工学専攻	3	—	—	—	〃	—	平成5年度		平成25年度から学生募集停止
システム設計工学専攻	3	—	—	—	〃	—	〃		〃
ファイバ・アモニティ 工学専攻	3	—	—	—	〃	—	平成14年度		〃
原子力・エネルギー 安全工学専攻	3	—	—	—	〃	—	平成16年度		〃

- (注) ・ 本調査の対象となっている大学等の設置者（国立大学法人）が設置している全ての大学（学部，学科）及び大学院（専攻）（AC対象学部等含む）について，それぞれの学校種ごとに，平成28年5月1日現在の上記項目の情報を記入してください。
- ・ 学部の学科または研究科の専攻等，「入学定員を定めている組織」ごとに記入してください。
 ※「入学定員を定めている組織ごと」には，課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 ※なお，課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は，法令上規定されている組織上の最小単位（大学であれば「学科」，短期大学であれば「専攻課程」）でも記載してください。
 - ・ 専攻科に係るものについては，記入する必要はありません。
 - ・ AC対象学部等についても必ず記入してください。
 - ・ 「平均入学定員超過率」には，標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点以下第2位まで（小数点以下第3位を切り捨て）を記入してください。
 - ・ 学生募集を停止している学部等がある場合，入学定員・収容定員・平均入学定員超過率は「—」とし，「備考」に「平成〇〇年より学生募集停止」と記入してください。

5 教員組織の状況

<共通>

(1) 担当教員表

設置時の計画					変更状況					備考
専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
					兼任	理事 副学 長	岩井 善郎	平成29年4月	地方創生福井モデルの事例研究「鯖江市」～ふくいを知る・見る・考える	COC+事業に伴う地域志向科目の充実のため(28)
兼任	教授	川上 洋司	平成29年4月	まちづくり論						
兼任	教授	福原 輝幸	平成29年4月	災害の科学 ※						
兼任	教授	齊藤 輝雄	平成29年4月	電磁波と物質 ※						
兼任	教授	石井パークマン 麻子	平成29年4月	人間の科学特別演習C (障害児)						
兼任	教授	安田 年博	平成29年4月	健康科学・医科学概論 ※						
兼任	教授	内田 博之	平成29年4月	バイオの世界 ※						
兼任	教授	服部 由美子	平成29年4月	衣生活の現状						
兼任	教授	宗倉 啓	平成29年4月	ニュースポーツと健康生活						
兼任	教授	澤崎 久和	平成29年4月	中国の古典文学						
兼任	教授	藤井 豊	平成29年4月	健康科学・医科学概論 ※						
兼任	教授	上野 栄一	平成29年4月	健康科学・医科学概論 ※						
兼任	教授	太田 淳一	平成29年4月	熱と流れ ※						
兼任	教授	小川 勇	平成29年4月	電磁波と物質 ※						

兼担	教授	坂田 登	平成29年4月	哲学的人間学Ⅰ 哲学的人間学Ⅱ ラテン語とキリスト教						
兼担	教授	寺尾 健夫	平成29年4月	批判的思考を伸ばす						
兼担	教授	高木 裕美	平成29年4月	ピアノの魅力をさぐる						
兼担	教授	大山 利夫	平成29年4月	ヒトの生物学						
兼担	教授	橋本 明弘	平成29年4月	エネルギーと環境						
兼担	教授	鞍谷 文保	平成29年4月	音と振動						
兼担	教授	水沢 利栄	平成29年4月	アウトドアスポーツとバリアフリー						
兼担	教授	濱口 由美	平成29年4月	生活と美術ーみる、えがく、つくる						
兼担	教授	安倍 博	平成29年4月	健康科学・医科学概論 ※						
兼担	教授	平田 隆幸	平成29年4月	宮沢賢治と非線形科学						
兼担	教授	金邊 忠	平成29年4月	電子の世界						
兼担	教授	山本 博文	平成29年4月	日本海地域の自然と環境 地球の環境						
兼担	教授	飛田 英孝	平成29年4月	科学技術と環境 ※						
兼担	教授	宇笠 正美	平成29年4月	東日本大震災をどう受け止めるか ※						
兼担	教授	野嶋 慎二	平成29年4月	まちづくり論						
兼担	教授	小嶋 啓介	平成29年4月	災害の科学 ※ 災害ボランティア論						
兼担	教授	明石 行生	平成29年4月	都市と建築の環境 ※						

兼担	教授	佐々木 隆	平成29年4月	新素材の世界 ※						
兼担	教授	大久保 貢	平成29年4月	半導体の科学						
兼担	教授	高山 善行	平成29年4月	日本語の歴史						
兼担	教授	荻原 隆	平成29年4月	科学技術と環境 ※				科学技術と環境一※	退職により教員を見直し、当該科目は複数名で担当のため、後任なし(28)	
兼担	教授	小原 敦美	平成29年4月	対称性と微分方程式						
兼担	教授	前田 寧	平成29年4月	生体機能と化学物質 ※						
兼担	教授	山田 徳史	平成29年4月	数学のことばで理解する物理学						
兼担	教授	櫻井 明彦	平成29年4月	バイオの世界 ※						
兼担	教授	澁谷 政子	平成29年4月	近現代の音楽芸術						
兼担	教授	栗原 一嘉	平成29年4月	物理と微積分						
兼担	教授	細田 陽介	平成29年4月	数値計算の考え方						
兼担	教授	光藤 誠太郎	平成29年4月	電磁波と物質 ※						
兼担	教授	永井 二郎	平成29年4月	熱と流れ ※						
兼担	教授	田上 秀一	平成29年4月	繊維の世界 ※						
兼担	教授	中根 幸治	平成29年4月	繊維の世界 ※						
兼担	教授	久田 研次	平成29年4月	進化する繊維の技術 ※						
兼担	教授	浅原 雅浩	平成29年4月	地域科学コミュニケーション						

兼担	教授	西村 保三	平成29年4月	ゲームとパズルの数学						
兼担	准教授	湊 七雄	平成29年4月	造形美術の世界－絵画						
兼担	准教授	瀬 和則	平成29年4月	新素材の世界 ※						
兼担	准教授	谷澤 昭彦	平成29年4月	健康科学・医科学概論 ※	兼担	教授	谷澤 昭彦	平成29年4月	健康科学・医科学概論 ※	担当教員昇任のため(28)
兼担	准教授	梅村 憲子	平成29年4月	合唱の魅力を探る						
兼担	准教授	高橋 一郎	平成29年4月	生体機能と化学物質 ※						
兼担	准教授	陳 競鷲	平成29年4月	エネルギー科学						
兼担	准教授	木村 哲也	平成29年4月	東日本大震災をどう受け止めるか ※放射線利用－医学と産業－						
兼担	准教授	五井 孝憲	平成29年4月	健康科学・医科学概論 ※	兼担	教授	五井 孝憲	平成29年4月	健康科学・医科学概論 ※	担当教員昇任のため(28)
兼担	准教授	小林 和雄	平成29年4月	科学的な見方・考え方						
兼担	准教授	竹内 恵子	平成29年4月	生まれること、産むこと						
兼担	准教授	吉村 治広	平成29年4月	ポピュラー音楽の魅力さをさぐる	兼担	教授	吉村 治広	平成29年4月	ポピュラー音楽の魅力さをさぐる	担当教員昇任のため(28)
兼担	准教授	芹生 正史	平成29年4月	宇宙の成り立ち						
兼担	准教授	風間 寛司	平成29年4月	数学の歴史						
兼担	准教授	伊達 正起	平成29年4月	リスニングⅡ	兼担	教授	伊達 正起	平成29年4月	リスニングⅡ	担当教員昇任のため(28)
兼担	准教授	磯 雅人	平成29年4月	災害の科学 ※						
兼担	准教授	寺田 聡	平成29年4月	バイオの世界 ※						

兼担	准教授	膽吹 覚	平成29年4月	日本語B 日本語C 日本の文化 日本事情A（日本語と文化） 日本事情B（社会と文化）							
兼担	准教授	田中 穰	平成29年4月	新素材の世界 ※							
兼担	准教授	松友 一雄	平成29年4月	言語生活論 言語表現							
兼担	准教授	稲垣 良介	平成29年4月	ネット型球技（バレーボール）指導の理論と実際							
兼担	准教授	川本 義海	平成29年4月	まちづくり論							
兼担	准教授	入江 聡	平成29年4月	現場で役立つ機器分析 繊維の世界 ※							
兼担	准教授	森 幹男	平成29年4月	計算機システムの基礎							
兼担	准教授	橋本 康弘	平成29年4月	「社会がわかる」とは？	兼担	教授	橋本 康弘	平成29年4月	「社会がわかる」とは？	担当教員昇任のため (28)	
兼担	准教授	坂本 太郎	平成29年4月	造形美術の世界—表現世界の多様性							
兼担	准教授	千原 一泰	平成29年4月	健康科学・医科学概論 ※							
兼担	准教授	鈴木 清	平成29年4月	科学技術と環境 ※							
兼担	准教授	門井 直哉	平成29年4月	地図に見る歴史と景観	兼担	教授	門井 直哉	平成29年4月	地図に見る歴史と景観	担当教員昇任のため (28)	
兼担	准教授	山本 晃司	平成29年4月	電磁波と物質 ※							
兼担	准教授	保科 英人	平成29年4月	自然史と生物							
兼担	准教授	高橋 泰岳	平成29年4月	ロボットの知能と学習							
兼担	准教授	菊地 吉信	平成29年4月	まちづくり論							
兼担	准教授	吉田 伸治	平成29年4月	都市と建築の環境 ※					都市と建築の環境—※	退職により教員を見直し、当該科目は複数名で担当のため、後任なし (28)	

兼担	准教授	藤田 聡	平成29年4月	進化する繊維の技術 ※						
兼担	准教授	廣澤 愛子	平成29年4月	人間の科学特別演習B (心理学)						
兼担	准教授	小林 泰三	平成29年4月	災害の科学 ※						
兼担	准教授	吉見 泰治	平成29年4月	生体機能と化学物質 ※						
兼担	准教授	里村 武範	平成29年4月	バイオの世界 ※						
兼担	准教授	杉原 伸治	平成29年4月	生体機能と化学物質 ※						
兼担	准教授	内村 智博	平成29年4月	科学技術と環境 ※						
兼担	准教授	岸 俊行	平成29年4月	心を探る (人間関係論) 人間の科学特別演習B (心理学)						
兼担	准教授	山田 吉英	平成29年4月	科学的な見方・考え方						
兼担	准教授	大和 真希子	平成29年4月	人間の科学特別演習A (教育学) 子どもと学校						
兼担	准教授	遠藤 貴広	平成29年4月	教えることと学ぶこと						
兼担	准教授	廣垣 和正	平成29年4月	進化する繊維の技術 ※						
兼担	准教授	大西 将史	平成29年4月	こころの発達と健康 人間の科学特別演習B (心理学)						
兼担	准教授	星谷 丈生	平成29年4月	現代音楽入門						
兼担	准教授	大堀 道広	平成29年4月	地域の防災・危機管理 ※						
兼担	講師	本間 礼人	平成29年4月	災害の科学 ※						
兼担	講師	Dylan Jones	平成29年4月	ライティング I	兼担	准教授	Dylan Jones	平成29年4月	ライティング I	担当教員昇任のため (28)

兼担	講師	西沢 徹	平成29年4月	地域科学コミュニケーション 植物の生活史と進化	兼担	准教授	西沢 徹	平成29年4月	地域科学コミュニケーション 植物の生活史と進化	担当教員昇任のため (28)
兼担	講師	井上 圭一	平成29年4月	災害の科学 ※						
兼担	講師	本田 安都子	平成29年4月	アメリカの文化	兼担	准教授	本田 安都子	平成29年4月	アメリカの文化	担当教員昇任のため (28)
兼担	講師	山田 孝禎	平成29年4月	健康メディアリテラシー	兼担	准教授	山田 孝禎	平成29年4月	健康メディアリテラシー	担当教員昇任のため (28)
兼担	講師	三好 雅也	平成29年4月	火山のはなし	兼担	准教授	三好 雅也	平成29年4月	火山のはなし	担当教員昇任のため (28)
兼担	講師	中村 太一	平成29年4月	リーディング	兼担	准教授	中村 太一	平成29年4月	リーディング	担当教員昇任のため (28)
兼担	講師	笹原 未来	平成29年4月	人間の科学特別演習C (障害児)						
兼担	講師	植松 英之	平成29年4月	繊維の世界 ※						
兼担	助教	田中 幸枝	平成29年4月	健康科学・医科学概論 ※						
兼担	助教	森川 美羽	平成29年4月	健康科学・医科学概論 ※						
兼担	助教	島田 直樹	平成29年4月	繊維の世界 ※						
兼担	特命助教	佐藤 直樹	平成29年4月	環境問題と社会			後任未定		環境問題と社会	退職による教員を見直し、後任補充予定 (28)

<国際地域学部 国際地域学科>

(1) 担当教員表

設置時の計画				変更状況				備考
専任・兼担・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	専任・兼担・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	
専任	教授	寺岡 英男	平成28年4月					
専任	教授	LEHNER ALBERT JOSEPH JR	平成28年4月					

専任	教授	伊藤 勇	平成28年4月	社会学 A (相互行為論入門) 社会学 B (現代農村の社会学) 国際地域概論 ※ リサーチ入門 (J) 社会学概論 ※ 質的調査法 (J) ※ 課題探究プロジェクト基礎 A 課題探究プロジェクトⅠ 課題探究プロジェクトⅡ 課題探究プロジェクトⅢ A 課題探究プロジェクトⅢ B 社会学概論 農村社会学 卒業研究セミナー 卒業研究						
専任	教授	横井 正信	平成28年4月	政治学 A (現代政治学入門) 政治学 B (戦後日本の政治) 国際地域概論 ※ 課題探究プロジェクト基礎 A 課題探究プロジェクトⅠ 課題探究プロジェクトⅡ 課題探究プロジェクトⅢ A 課題探究プロジェクトⅢ B 政治学概論 国際政治学 卒業研究セミナー 卒業研究						
専任	教授	木原 泰紀	平成28年4月	English Reading Ⅲ English Reading Ⅳ 課題探究プロジェクト基礎 B 課題探究プロジェクトⅠ 課題探究プロジェクトⅡ 課題探究プロジェクトⅢ A 課題探究プロジェクトⅢ B 課題探究プロジェクトⅢ C イギリス表象文化 イギリス文学 卒業研究						
専任	教授	木村 亮	平成28年4月	大学教育入門セミナー 経済学 A (盛融って得だろ?) 経済学 B (現代社会とワークルール) 国際地域概論 ※ 課題探究プロジェクト基礎 A 課題探究プロジェクトⅠ 課題探究プロジェクトⅡ 課題探究プロジェクトⅢ A 課題探究プロジェクトⅢ B 地域経済論 福井地域の歴史 ※ 卒業研究セミナー 卒業研究						
専任	教授	岡崎 英一	平成28年4月	大学教育入門セミナー 課題探究プロジェクト基礎 A 課題探究プロジェクトⅠ 課題探究プロジェクトⅡ 課題探究プロジェクトⅢ A 課題探究プロジェクトⅢ B 会計学 卒業研究セミナー 卒業研究						
専任	教授	松田 和之	平成28年4月	フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ フランス文学入門 ヨーロッパの映画 フランス言語文化講義 フランス文学講義 課題探究プロジェクト基礎 B 課題探究プロジェクトⅠ 課題探究プロジェクトⅡ 課題探究プロジェクトⅢ A 課題探究プロジェクトⅢ B 課題探究プロジェクトⅢ C フランス文学 ヨーロッパの表象文化 ※ 卒業研究						
専任	教授	月原 敏博	平成28年4月	大学教育入門セミナー 発展途上国の人間地生態 国際地域概論 ※ 地域データ分析 課題探究プロジェクト基礎 A 課題探究プロジェクトⅠ 課題探究プロジェクトⅡ 課題探究プロジェクトⅢ A 課題探究プロジェクトⅢ B 産業地理学 都市と農村 卒業研究セミナー 卒業研究						
専任	教授	皆島 博	平成28年4月	ヨーロッパの言語事情 TOEFL対策講座 課題探究プロジェクト基礎 A 課題探究プロジェクトⅠ 課題探究プロジェクトⅡ 課題探究プロジェクトⅢ A 課題探究プロジェクトⅢ B 課題探究プロジェクトⅢ C 言語学入門 英語圏の言語と文化 日英対照言語学 【隔年】 卒業研究						

専任	教授	小幡 浩司	平成28年4月	国際地域概論 ※ 課題探求プロジェクト基礎B 留学セミナー 卒業研究						
専任	教授	細谷 龍平	平成28年4月	国際地域概論 ※ 課題探求プロジェクト基礎B 課題探求プロジェクトI 課題探求プロジェクトII 課題探求プロジェクトIII A 課題探求プロジェクトIII B 課題探求プロジェクトIII C 国際関係論 国際政策 国際コミュニケーション論 卒業研究						
専任	准教授	JANNUZI CHARLES EDWARD	平成28年4月	スピーキング I ライティング II 課題探求プロジェクト基礎B 課題探求プロジェクトII 課題探求プロジェクトIII A 課題探求プロジェクトIII C アメリカ英語入門 EFL学習者のための音声学・音 韻論入門 卒業研究						
専任	准教授	KING KELLY JEAN	平成28年4月	英語 III 英語 IV 国際地域概論 ※ English Writing III English Writing IV Academic Reading I Academic Reading II Academic English Writing I Academic English Writing II 質的調査法 (E) ※ 課題探求プロジェクト基礎B 課題探求プロジェクトI 課題探求プロジェクトII 課題探求プロジェクトIII A 課題探求プロジェクトIII B 課題探求プロジェクトIII C 教育における社会正義の問題 卒業研究						
専任	准教授	井上 博行	平成28年4月	大学教育入門セミナー 情報処理基礎 情報技術基礎 量的データ分析 データサイエンス II 課題探求プロジェクト基礎A 課題探求プロジェクトI 課題探求プロジェクトII 課題探求プロジェクトIII A 課題探求プロジェクトIII B 地域情報システム 卒業研究セミナー 卒業研究						
専任	准教授	永井 崇弘	平成28年4月	大学教育入門セミナー 中国語 I 中国語 II 中国のことば 中国語音声理解 中国語音声表現 応用中国語 I 応用中国語 II 課題探求プロジェクト基礎B 課題探求プロジェクトI 課題探求プロジェクトII 課題探求プロジェクトIII A 課題探求プロジェクトIII B 課題探求プロジェクトIII C 中国語学概論 中国語文化特異講義 卒業研究						
専任	准教授	羽田野 慶子	平成28年4月	大学教育入門セミナー ジェンダー論 課題探求プロジェクト基礎A 課題探求プロジェクトI 課題探求プロジェクトII 課題探求プロジェクトIII A 課題探求プロジェクトIII B 生涯学習概論 社会教育計画 ジェンダー論入門 男女共同参画学習論 教育社会学 卒業研究セミナー 卒業研究						

専任	准教授	今井 祐子	平成28年4月	フランス語Ⅲ フランス語Ⅳ フランスの文化A (文学と絵画) 【同年】 フランスの文化B (シネマとその時代) 【同年】 フランス語の世界1 フランス語の世界2 現代事情講義 課題探究プロジェクト基礎A 課題探究プロジェクトⅠ 課題探究プロジェクトⅡ 課題探究プロジェクトⅢA 課題探究プロジェクトⅢB 課題探究プロジェクトⅢC 比較文化論 国際文化交流論 卒業研究						
専任	准教授	磯崎 (中田) 康太郎	平成28年4月	大学教育入門セミナー ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ ドイツ語Ⅲ ドイツ語Ⅳ ドイツの文化 ドイツ言語文化講義 比較文化論演習 課題探究プロジェクト基礎B 課題探究プロジェクトⅠ 課題探究プロジェクトⅡ 課題探究プロジェクトⅢA 課題探究プロジェクトⅢB 課題探究プロジェクトⅢC ドイツの現代事情 ドイツ文学 ヨーロッパの表象文化 ※ 卒業研究						
専任	准教授	田村 (佐藤) 容子	平成28年4月	中国語の世界3 中国語の世界4 中国の文化 中国語文法基礎 課題探究プロジェクト基礎A 課題探究プロジェクトⅠ 課題探究プロジェクトⅡ 課題探究プロジェクトⅢA 課題探究プロジェクトⅢB 課題探究プロジェクトⅢC 中国文学 現代中国語講義 中国文化演習 卒業研究						
専任	准教授	生駒 俊英	平成28年4月	国際地域概論 ※ 課題探究プロジェクト基礎A 課題探究プロジェクトⅠ 課題探究プロジェクトⅡ 課題探究プロジェクトⅢA 課題探究プロジェクトⅢB 法学論 民法 (総則) 民法 (物権・債権) 民法 (親族・相続) 卒業研究セミナー 卒業研究						
専任	講師	東村 (魚津) 純子	平成28年4月	考古学入門 課題探究プロジェクト基礎A 課題探究プロジェクトⅠ 課題探究プロジェクトⅡ 課題探究プロジェクトⅢA 課題探究プロジェクトⅢB 文化資源論 地域文化マネジメント 卒業研究セミナー 卒業研究						
専任	講師	田中 志敬	平成28年4月	大学教育入門セミナー コミュニティと住居組織 国際地域概論 ※ 社会調査論 ※ 質的調査法 (J) ※ 課題探究プロジェクト基礎A 課題探究プロジェクトⅠ 課題探究プロジェクトⅡ 課題探究プロジェクトⅢA 課題探究プロジェクトⅢB 都市コミュニティ論 住居組織論 卒業研究セミナー 卒業研究						
専任	講師	栗原 知子	平成28年4月	大学教育入門セミナー 国際地域概論 ※ 地域計画論 子どもと住環境 課題探究プロジェクト基礎A 課題探究プロジェクトⅠ 課題探究プロジェクトⅡ 課題探究プロジェクトⅢA 課題探究プロジェクトⅢB 卒業研究セミナー 卒業研究						

専任	講師	飯田 健志	平成28年4月	経済学C（経済学の基礎理論） 課題探求プロジェクト基礎A 課題探求プロジェクトI 課題探求プロジェクトII 課題探求プロジェクトIII A 課題探求プロジェクトIII B 経済理論（ミクロ） 経済政策論 卒業研究セミナー 卒業研究						
専任	講師	中村 友哉	平成28年4月	経営学概論						
専任	講師	隼瀬 悠里	平成28年4月	比較教育学						
専任	助教	HENNESSY CHRISTOPHER ROBERT	平成28年4月	英語 I 英語 IV 英語 V 英語Ⅵ 質的調査法（E） ※ 課題探求プロジェクト基礎B 課題探求プロジェクトI 課題探求プロジェクトII 課題探求プロジェクトIII B 日本語の発展 卒業研究						
専任	助教	BECCE NICOLANGELO	平成28年4月	英作文 I 英作文 II Academic English Writing I Academic English Writing II 質的調査法（E） ※ 課題探求プロジェクト基礎B 課題探求プロジェクトI 課題探求プロジェクトIII B アメリカの短編小説 アメリカ文学の諸トピックス アジア系アメリカ文学 比較文学 卒業研究						
専任	助教	LOMBARDI IVAN	平成28年4月	英語IV 英語Ⅵ 質的調査法（E） ※ 課題探求プロジェクト基礎B 課題探求プロジェクトIII B 言語学入門 【1年】 第二言語習得 【1年】 心理言語学 【1年】 異文化コミュニケーション 教育におけるゲーム 【1年】 卒業研究						
兼担	教授	寺澤 秀一	平成30年4月	医療概論 I ※						
兼担	教授	上澤 悦子	平成31年4月	医療特論 II ※						
兼担	教授	和田 有司	平成30年4月	医療概論 I ※ 医療特論 II ※						
兼担	教授	松下 聡	平成29年4月	都市と建築の環境 ※ 建築計画各論第二						
兼担	教授	老木 成稔	平成30年4月	医療概論 I ※						
兼担	教授	日下 幸則	平成30年4月	医療概論 I ※						
兼担	教授	佐野 和生	平成30年4月	医療概論 I ※						

兼担	教授	出口 洋二	平成31年4月	医療特論Ⅲ						
兼担	教授	葛生 伸	平成29年4月	科学技術と社会 科学技術と倫理 生活の中の熱とエネルギー プロントランパー						
兼担	教授	KING KRISTY	平成28年4月	英語Ⅱ 英語Ⅲ Academic Reading I Academic Reading II リサーチ入門 (E) 発達心理学【6歳年】 人間の発達【6歳年】	兼担	特命助教	BOYD DARRYLE LAMONT	平成28年4月	英語Ⅱ 英語Ⅲ	退職による担当教員見直しのため(28)
					兼任	講師	澤崎 敏文	平成28年4月	リサーチ入門 (E)	退職による担当教員見直しのため(28)
							後任未定		Academic Reading I Academic Reading II 発達心理学【6歳年】 人間の発達【6歳年】	退職による教員を見直し、後任補充予定 (28)
兼担	教授	木村 浩彦	平成30年4月	医療概論Ⅰ ※						
兼担	教授	腰地 孝昭	平成30年4月	医療概論Ⅰ ※						
兼担	教授	横山 修	平成30年4月	医療概論Ⅰ ※						
兼担	教授	酒井 明子	平成29年4月	東日本大震災をどう受け止めるか ※ 放射線利用—医学と産業— ※ 医療特論Ⅱ ※						
兼担	教授	玉川 洋一	平成29年4月	放射線利用—医学と産業— ※ 放射線安全工学 ※						
兼担	教授	吉田 拓生	平成29年4月	放射線安全工学 ※						
兼担	教授	岩野 正之	平成30年4月	医療概論Ⅰ ※						
兼担	教授	松岡 達	平成29年4月	健康科学・医科学概論 ※ 医療概論Ⅰ ※						
兼担	教授	内木 宏延	平成30年4月	医療概論Ⅰ ※						
兼担	教授	岩崎 博道	平成30年4月	医療概論Ⅰ ※						
兼担	教授	石塚 全	平成30年4月	医療概論Ⅰ ※						
兼担	教授	重見 研司	平成30年4月	医療概論Ⅰ ※						

兼担	教授	寿田 浩	平成30年4月	医療概論Ⅰ ※						
兼担	教授	大嶋 勇成	平成30年4月	医療概論Ⅰ ※						
兼担	教授	吉田 好雄	平成29年4月	健康科学・医科学概論 ※ 医療概論Ⅰ ※						
兼担	教授	友田 明美	平成30年4月	医療概論Ⅰ ※						
兼担	教授	林 寛之	平成30年4月	医療概論Ⅰ ※						
兼担	教授	岡沢 秀彦	平成30年4月	医療概論Ⅰ ※						
兼担	教授	菅井 学	平成30年4月	医療概論Ⅰ ※						
兼担	教授	中本 安成	平成30年4月	医療概論Ⅰ ※						
兼担	教授	深澤 有吾	平成30年4月	医療概論Ⅰ ※						
兼担	教授	米沢 晋	平成29年4月	フロントランナー						
兼担	教授	菊田 健一郎	平成30年4月	医療概論Ⅰ ※						
兼担	教授	長谷川 美香	平成29年4月	医療特論Ⅱ ※						
兼担	教授	飯野 哲	平成30年4月	医療概論Ⅰ ※						
兼担	教授	定 清直	平成30年4月	医療概論Ⅰ ※						
兼担	教授	長谷川 稔	平成30年4月	医療概論Ⅰ ※						
兼担	教授	松崎 秀夫	平成29年4月	健康科学・医科学概論 ※ 医療概論Ⅰ ※						
兼担	教授	泉 佳伸	平成29年4月	放射線利用－医学と産業－ ※ 放射線安全工学 ※						

兼担	教授	安田 仲宏	平成29年4月	東日本大震災をどう受け止めるか ※ 放射線利用-医学と産業- ※ 地域の防災・危機管理 ※ 原子力・災害関連法令と国際的関係 放射線安全工学 ※						
兼担	教授	小林 基弘	平成29年4月	健康科学・医科学概論 ※ 医療概論 I ※						
兼担	教授	青木 耕史	平成30年4月	医療概論 I ※						
兼担	准教授	松本 英樹	平成29年4月	健康科学・医科学概論 ※ 医療概論 I ※						
兼担	准教授	島田 一郎	平成30年4月	医療概論 I ※	兼担	教授	島田 一郎	平成30年4月	医療概論 I ※	担当教員昇任のため (28)
兼担	准教授	繁田 里美	平成31年4月	医療特論 II ※						
兼担	准教授	浅井 竜哉	平成29年4月	生体情報工学 放射線の生物影響と防護						
兼担	准教授	内田 研造	平成30年4月	医療概論 I ※						退職により教員を見直し、当該科目は複数名で担当のため、後任なし (28)
兼担	准教授	磯見 智恵	平成29年4月	医療特論 II ※	兼担	教授	磯見 智恵	平成29年4月	医療特論 II ※	担当教員昇任のため (28)
兼担	准教授	桑原 陽子	平成29年4月	日本語C 日本語E 日本語H 多文化コミュニケーションA (異文化コミュニケーションA) 多文化コミュニケーションB (日本語コミュニケーションB) 多文化コミュニケーションC (異文化コミュニケーションC) コミュニケーションのための日本語教育論	兼担	准教授	桑原 陽子	平成29年4月	日本語C 日本語E 日本語H 多文化コミュニケーションA (異文化コミュニケーションA) 多文化コミュニケーションB (日本語コミュニケーションB) 多文化コミュニケーションC (異文化コミュニケーションC) コミュニケーションのための日本語教育論	担当科目の見直しのため (28)
兼担	准教授	佐藤 綾	平成29年4月	日本語学概論 コミュニケーションのための日本語教育論	兼担	准教授	佐藤 綾	平成29年4月	日本語学概論	担当教員追加のため (28)
兼担	准教授	小川 泉	平成29年4月	放射線安全工学 ※						
兼担	准教授	月田 佳寿美	平成31年4月	医療特論 II ※						
兼担	准教授	三浦 麻	平成29年4月	地域の局地気象 地域環境論						

兼任	准教授	高村 佳弘	平成30年4月	医療概論Ⅰ ※							
兼任	准教授	長谷川 裕子	平成29年4月	日本史(中世社会の転換) 日本史(近世社会の展開) 日本史概論 福井地域の歴史 ※							
兼任	准教授	清水 泰幸	平成29年4月	憲法概論 日本国憲法 地方自治法 社会保障法 労働法							
兼任	准教授	山次 俊介	平成30年4月	医療特論Ⅰ ※							
兼任	准教授	竹本 拓治	平成29年4月	現代社会とビジネス 現代社会とキャリア・アント レプレナーシップ アントレプレナーシップ論							
兼任	准教授	原田 陽子	平成29年4月	建築計画各論第一							
兼任	准教授	松本 智恵子	平成28年4月	ランダム現象の記述 統計入門 データサイエンスⅠ							
兼任	講師	Malcolm Wayne Anthony	平成28年4月	英語Ⅲ 英語Ⅳ 異文化コミュニケーション 民族音楽学							
兼任	講師	中川 智寛	平成29年4月	日本の近代文学							
兼任	講師	岡田 将人	平成30年4月	ものづくり基礎工学							
兼任	特命講師	ECHELBERRY JAMES LEONARD	平成28年4月	英語Ⅱ 英語Ⅵ English Reading Ⅲ English Reading Ⅳ Academic Reading Ⅰ Academic Reading Ⅱ	兼任	特命 助教	REGINALD CLAUDE JULIUS GENTRY, Jr	平成28年4月	英語Ⅱ 英語Ⅵ	退職による担当教員見直しのため(28)	
							後任未定		English Reading Ⅲ English Reading Ⅳ Academic Reading Ⅰ Academic Reading Ⅱ	退職による教員を見直し、後任補充予定(28)	
兼任	講師	逸見 洋二郎	平成28年4月	英語Ⅰ 英語Ⅴ TOEFL対策講座							
兼任	特命講師	KOBATA LAURA ELLEN	平成28年4月	英語Ⅲ 英語Ⅶ English Writing Ⅲ English Writing Ⅳ 英作文Ⅰ 英作文Ⅱ アイルランドの文学【隔 年】 文学にみられる女性							
兼任	助教	杉田 大輔	平成30年4月	医療特論Ⅰ ※							

兼任	特命助教	GAGNON GREG	平成28年4月	英語Ⅱ 英語Ⅵ English ReadingⅢ English ReadingⅣ	兼任 特命 助教	COOPER ELLIOT LLOYD	平成28年4月	英語Ⅱ 英語Ⅵ	退職による担当教員見直しのため(28)
						後任未定		English ReadingⅢ English ReadingⅣ	退職による教員を見直し、後任補充予定(28)
兼任	特命助教	REGINALD CLAUDE JULIUS GENTRY, Jr	平成28年4月	English WritingⅢ English WritingⅣ					
兼任	特命助教	TSUSHIMA WALTER SATOSHI	平成28年4月	英語Ⅰ 英語Ⅳ 英語Ⅴ 英語Ⅵ 英語Ⅶ 英語Ⅷ 異文化コミュニケーション 日本の伝統文化入門					
兼任	特命助教	松尾 陽一郎	平成30年4月	放射線利用-医学と産業-※ 地域の防災・危機管理 ※ 放射線の生物影響と防護					
兼任	副看護部長	江守 直美	平成31年4月	医療特論Ⅱ ※					
兼任	講師	高嶋 猛	平成31年4月	建築史					
兼任	講師	金成 和喜	平成31年4月	マーケティング論					
兼任	講師	大磯 眞一	平成31年4月	資源エネルギー概論					
兼任	講師	高島 敏郎	平成29年4月	知的財産の基礎知識					
兼任	講師	高原 裕一	平成30年4月	ベンチャービジネス概論					
兼任	講師	吉村 臨兵	平成30年4月	医療概論Ⅱ					
兼任	講師	瓦井 昇	平成30年4月	地域福祉論					
兼任	講師	升田 法継	平成30年4月	人間関係論					
兼任	講師	島岡 哉	平成31年4月	メディア論					

兼任	講師	戸部 真澄	平成29年4月	行政法Ⅰ（総論）									
兼任	講師	今川 奈緒	平成30年4月	行政法Ⅱ（行政救済法）									
兼任	講師	平松 隆円	平成30年4月	観光学									

- (注) ・ 設置計画書の様式第3号（その2の1）に準じて作成してください。
 なお、当該設置に係る学部、学科等に所属しない教員であって、全学共通、学部共通などの授業科目を担当する教員組織に所属している場合は、〈〇〇学部 △△学科〉の箇所を「共通」とし、表を分けて作成してください。
 ・ 後任が決まっていない場合には、「後任未定」と記入してください。
 ・ 辞任者は「備考」に退職年月、氏名、理由を記入してください。
 ・ 年齢は、「**設置時の計画**」には当該学部等の就任時における満年齢を、「**変更状況**」には平成28年5月1日現在の満年齢を記入してください。
 ・ 教員を学年進行中に変更した又は変更する予定の場合（「新規採用」、「担当授業科目の変更」又は「昇格」をいう。）は、変更後の状況を記入するとともに、その理由、後任者が決まっていない場合は、「変更状況」の「氏名」に「後任未定」と記入し、及び今後の採用計画を「備考」に記入してください。
 ・ **意見個いで設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」、変更書を提出予定の場合は「〇年〇月変更書提出予定」と記入してください。
 なお、設置審査時に教員審査省略となっている場合は、「備考」に「（教員審査省略）」及びその変更の理由、変更年度（ ）書き等のみを記入してください。
 ・ **「事前伺い」により設置された学部等については、本項目を記載する必要はありません。**

(2) 専任教員数等

(2) - ① 専任教員数

設置時の計画					現在（報告書提出時）の状況					現在（報告書提出時）の完成年度時の計画				
教授	准教授	講師	助教	計	教授	准教授	講師	助教	計(A)	教授	准教授	講師	助教	計(B)
12	9	6	3	30	12	9	6	3	30	12	9	6	3	30
(12)	(9)	(6)	(3)	(30)						[0]	[0]	[0]	[0]	[0]

- (注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、（ ）内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告書提出時）の状況」には、報告書提出年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告書提出時）の完成年度時の計画」には、報告書提出年度の5月1日現在、完成年度時に計画している教員数を記入するとともに、[]内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2) - ② 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢（歳）	報告書提出時（上記(A)）の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時（上記(B)）の教員うち、定年を延長して採用する教員数
65	1	3
歳	名	名

- (注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、および、平成28年5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) -① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由				
		該当なし								
合計 (A)					後任補充状況の集計 (B)					
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
該当なし	人	必修	科目	必修	科目	必修	科目	必修	科目	
		選択	科目	選択	科目	選択	科目	選択	科目	
		自由	科目	自由	科目	自由	科目	自由	科目	
		計	科目	計	科目	計	科目	計	科目	

- (注) ・ 設置時以降、就任を辞退した**全ての専任教員**の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・ 「就任辞退（未就任）」とは、設置時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) -②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
- ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼任教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

・ 「事前伺い」により設置された学部等については、本項目を記載する必要はありません。

(3) -② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由				
		該当なし								
合計 (C)					後任補充状況の集計 (D)					
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
該当なし	人	必修	科目	必修	科目	必修	科目	必修	科目	
		選択	科目	選択	科目	選択	科目	選択	科目	
		自由	科目	自由	科目	自由	科目	自由	科目	
		計	科目	計	科目	計	科目	計	科目	

- (注) ・ 一度就任した後に、辞任した**全ての専任教員**の辞任の理由を具体的に記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
- ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼任教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

・ 「事前伺い」により設置された学部等については、本項目を記載する必要はありません。

上記(3)－① ・ (3)－② の合計

合計(A) + (C)			後任補充状況の集計(B) + (D)					
辞任等した教員数	担当科目数の合計(a) + (b) + (c)		①の合計数(a)		②の合計数(b)		③の合計数(c)	
該当なし 人	必修	科目	必修	科目	必修	科目	必修	科目
	選択	科目	選択	科目	選択	科目	選択	科目
	自由	科目	自由	科目	自由	科目	自由	科目
	計	科目	計	科目	計	科目	計	科目

(注) ・ 就任辞退(未就任)及び辞任した全専任教員について、教員数、担当科目数の合計、後任補充の状況を記入ください。

・ 「事前伺い」により設置された学部等については、本項目を記載する必要はありません。

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

(注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください

・ 「事前伺い」により設置された学部等については、本項目を記載する必要はありません。

6 留意事項等に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設 置 時 (平成28年5月)	「専門教育科目」に含まれる「日本語教授法」について、「審査意見への対応を記載した書類」にある期待される4つの教育効果を踏まえ、「教授法」との科目名称が適切な表現と言えるか。科目の概要を踏まえつつ、明確に説明するか、科目名称を再検討すること。	留意事項 4つの教育効果(①日本語に対する新たな発見で、日本文化に対する知識、理解が深化。②自文化との比較から、異文化に対する興味を高め、その知識、理解がさらに深化。③言語に対する視野を広げ、自らの英語学習、第2外国語習得に役立てる。④理解させようとする態度やその技法から、発信力、コミュニケーション能力が高まる。)を踏まえ、科目名称を『日本語教授法』から『コミュニケーションのための日本語教育論』に変更した。(28)	
	外国語に関する科目として、基礎教育科目に「〇〇語Ⅰ～Ⅳ」、共通教養科目に「教養〇〇語1～4」があるが、両科目の違い及び履修順序の説明はなされているものの、審査意見への対応と「授業科目の概要」に記載されている「講義等の内容」の整合性がとられるよう適切に対応すること。	留意事項 共通教育で開講される「教養ドイツ語1」等の科目は、外国語の運用能力よりも、外国語の学習を通じて異文化に触れ、外国語が使用される文化圏や外国語を通して見た場合の世界観の違い等、多様な価値観に対する理解を深めることを重点とする科目であるため、そのことを表す名称に、【別表1】の通り改めた。(28)	
	「リサーチ・リテラシー科目」の「リサーチ入門Ⅱ」と「リサーチ方法論」について、「審査意見への対応を記載した書類」へ記載内容から、両科目については、使用言語が異なる同一内容の科目が置かれているものと表現されている。履修方法について説明すること。(使用言語の違いはあるものの、同一内容の科目を履修できないように制限を設けることに期待。)	留意事項 使用言語が異なる同一内容の科目は、「リサーチ入門Ⅱ」(英語)と「リサーチ入門Ⅰ」(日本語)、「リサーチ方法論」(英語)と「社会調査法Ⅱ」(日本語)であり、それぞれ何れか1科目のみを選択履修できるものとし、社会調査士の資格取得を目指す学生には「リサーチ入門Ⅰ」及び「社会調査法Ⅱ」を、また、特に資格取得にこだわらず、2年次にグローバルアプローチを選択しようとする学生及び留学生には「リサーチ入門Ⅱ」及び「リサーチ方法論」の履修を、それぞれ指導することとした。 なお、履修指導に関しては、教育課程表にその旨を記載した。 また、上記の対応に合わせて、授業科目の名称、配当年次及び科目配列を【別表2】の通り改めた。(28)	
	「現代社会科目(国際)」に配置されている「国際政策」について、講義内容に国際的な観点が多く含まれるよう改めること。また、「教育における社会正義の問題」は、当初配置されていた「多文化理解科目」へ戻すこと。	留意事項 「国際政策」は、元外務省の特命全権大使で、OECDやユネスコでも勤務経験のある専任教員が担当することとし、講義内容に国際的な観点が多く含まれるよう改めた。(28) また、「教育における社会正義の問題」は、当初配置されていた科目区分(多文化理解科目)に改めた。(28)	
	アクティブラーニングにより行われる科目については、事前指導に加え、事後指導も必要と考えられるため、例えば学生間で学びをシェアできるような仕掛けや教育内容を検討の上、導入すること。	留意事項 各プロジェクトに取り組む学生間で、経過発表や意見交換を行う機会を適宜設ける。なお、学年末には下級生も交えた最終報告会を開催するとともに、最終成果報告書を作成して各活動を総括し、経験を共有する。また、下級生の活動の参考に供する。(28)	
	「リサーチ・リテラシー科目」について、各科目区分の体系性は整理されたが、科目名称の統一感が感じられない。社会調査士の資格取得に必要な科目であることや学生から見て、科目内容に誤解が生じないよう、全ての科目をカリキュラムに対応した適切な科目名称に改めること。	留意事項 カリキュラムや社会調査士の資格取得に適切に対応するため、授業科目の名称、配当年次及び科目配列を【別表2】の通り改めた。(28)	
	「福井大学の留学条件」である「GPA2.5」について、留学を必修とする本学部グローバルアプローチにおいても、同様の取扱いとすることで、学部内の成績上位層のみが留学可能となる仕組みになるのではないかと。このことが、結果として、学生の成績に起因するグローバルアプローチと地域創生アプローチの履修上の分化につながるものが危惧されるので、留学の運用方法について、再検討すること。	留意事項 本学部では、1年次で徹底した英語教育を行い、海外留学が効果的に行われる基礎的な能力の形成を図った上で、両アプローチとも3年次以降に留学を位置付けている。 なお、北米大学、アジア・オセアニア・欧州の主要大学の交換留学生としての入学最低条件はGPA2.5(≧4.0)以上であり、北米大学では、質の保証の観点から、派遣生に対しGPA3.0(≧4.0)以上を求めている。受入生に対してもGPA2.8(≧4.0)あるいは3.0(≧4.0)を求めている大学は少なくない。この流れはアジアの主要大学でも同様である。 また、留学先での学習を成功裡に終了するためには、リスク回避の下限がGPA2.5であると考えられる。 このように、本学部では全ての学生が海外留学を行うことを想定しており、その最低条件としてGPA2.5(≧4.0)は必要であるとともに、最大18単位/半期というCAP制を導入し、授業時間以外に十分な学習時間を確保することとしていることから、留学申請する前の段階でGPA2.5(≧4.0)を満たすことは、アプローチの違いを超えて到達可能なレベルと考えられる。 これらのことから、留学条件である「GPA2.5」によって、学部内の成績上位層のみが留学可能となり、結果として、学生の成績に起因するグローバルアプローチと地域創生アプローチの履修上の分化につながるという危惧はない。(28)	

設置時 (平成28年5月)	「留学先大学の教員から指導・アドバイスを得る体制を準備することも発展的な支援体制として検討」とあるが、留学によるメリットを最大限に活かすためにも、留学先における指導体制を実質化することが望ましい。	その他 意見	留学先で指導・アドバイスを日常的に受ける指導教員を予め決め、留学期間中においても、メールやスカイプ等の通信手段を用いて指導教員同士が定期的に連絡を取り合い、必要に応じて本学の教員が先方に出向き留学先の指導教員と協議する等の体制を構築する。(28)	
	「国際地域」の名称に含まれる国際問題と地域問題には共通したアプローチが適用可能であることも確かであるが、一方で両者の相違点についても正しく認識させることが学士課程教育においては必要なことと考えられる。教育課程において、その点に留意して教育を進めることが望ましい。	その他 意見	本学部の教育課程において、国際問題と地域問題の異同の比較を通して、両者の相違点についても正しく認識させる教育を進める。(28)	
	「福井とその近隣という地域に止まらない、国内の他の多くの地域に共通する現れでもあり、」とあるが、他の地域と比較する視点についても、「設置の趣旨等を記載した書類」の中で説明することが望ましい。	その他 意見	他の地域と比較する視点についての説明を、「設置の趣旨等を記載した書類(10～11頁)」に記述した。(28)	
	意見11への対応の中で、「必要単位数を追加できる柔軟な履修方法を取らせる」とあるが、意図することが分かるよう、記述を工夫すること。	その他 意見	学生は2年次開始時点までに、グローバルアプローチ、地域創生アプローチの何れかのアプローチを選択するが、興味関心の深まり等に応じて、その後のアプローチの変更を認める。 なお、アプローチを変更した学生が変更後のアプローチに必要な単位数を取得することに関し、アプローチ別に指定する授業科目群毎の卒業要件単位数の差を変更前のアプローチの卒業要件単位数に単純に加算した場合、グローバルアプローチを地域創生アプローチに変更する場合は81単位+16単位、地域創生アプローチをグローバルアプローチに変更する場合は86単位+11単位が必要となるが、十分に調整可能である。 また、地域創生アプローチからグローバルアプローチに変更した場合において、外国語科目(英語)に関しては、最大5単位の履修が必要となるが、この点については、当該外国語科目の内容に相当する海外留学先の大学の科目を予め確認し、留学先で履修した上で、その科目の成績評価をみて、本学部の相当科目の単位として認定すること等に対応する。 「必要単位数を追加できる柔軟な履修方法」とは、以上のようなことを意図しており、この趣旨を「設置の趣旨等を記載した書類」に加筆した。(28)	
	「医療概論Ⅱ」シラバス中の「講義等の内容」について、同科目の内容が端的に分かるよう、書きぶりを工夫することが望ましい。	その他 意見	シラバスの授業概要を、医学が専門ではない学生にも内容が分かる書き方に修正した。(28)	

- (注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時に付された留意事項と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を()書きで付記してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された意見に対する履行状況等について、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
 - ・ 定員管理に係る留意事項への履行状況は、指摘を受けた学科等についてのみ記入してください。
 - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「事前伺い」により設置された学部等については、本項目を記載する必要はありません。

【別表 1】

(旧)	(新)
教養中国語 1	中国語の世界 1
教養中国語 2	中国語の世界 2
教養中国語 3	中国語の世界 3
教養中国語 4	中国語の世界 4
教養ドイツ語 1	ドイツ語の世界 1
教養ドイツ語 2	ドイツ語の世界 2
教養ドイツ語 3	ドイツ語の世界 3
教養ドイツ語 4	ドイツ語の世界 4
教養フランス語 1	フランス語の世界 1
教養フランス語 2	フランス語の世界 2
教養フランス語 3	フランス語の世界 3
教養フランス語 4	フランス語の世界 4

【別表 2】

(旧)		(新)	
授業科目の名称	配当年次	授業科目の名称	配当年次
リサーチ入門 I (→リサーチ入門 (J))	1①②	リサーチ入門 (J)	1①②
リサーチ入門 II (→リサーチ入門 (E))	2③④	リサーチ入門 (E)	1①②
統計入門	1③④	統計入門	1③④
情報技術基礎	1③④	情報技術基礎	1③④
データ分析入門 (→量的データ分析)	2①②	データサイエンス I	2①②
データサイエンス I	2①②	データサイエンス II	2③④
データサイエンス II	2③④	社会調査論	2③④
地域分析 (→地域データ分析)	2③④	地域データ分析	2③④
社会調査法 I (→社会調査論)	2③④	量的データ分析	3①②
社会調査法 II (→質的調査法 (J))	3①②	質的調査法 (J)	3①②
リサーチ方法論 (→質的調査法 (E))	2①②	質的調査法 (E)	2③④

注)

- ・同一内容で使用言語が異なる「リサーチ入門 I」と「リサーチ入門 II」については、名称を、日本語開講科目であることを示す「リサーチ入門 (J)」と、英語開講科目であることを示す「リサーチ入門 (E)」に改める。
- ・社会調査士資格科目を中心に、「データ分析入門」を「量的データ分析」(授業科目の概要も精査)に、「地域分析」を「地域データ分析」に、「社会調査法 I」を「社会調査論」にそれぞれ改める。併せて、同一内容で使用言語が異なる「社会調査法 II」と「リサーチ方法論」については、名称を、日本語開講科目であることを示す「質的調査法 (J)」と、英語開講科目であることを示す「質的調査法 (E)」に改める。
- ・以上の見直しも踏まえ、「リサーチ入門 (E)」、「量的データ分析」及び「質的調査法 (E)」の配当年次をより適切な年次に改める。
- ・「社会調査法 I・II」の科目名を「社会調査論」と「質的調査法」に変更したのは、留意事項 6 の「社会調査士の資格に必要な科目であることや学生から見て科目内容に誤解が生じないよう」との指摘を受け、見直した結果である。見直しに際しては、資格認定団体の(社)社会調査協会が示す科目認定の基準(確認事項)や他大学で申請許可された科目名称を参照し、一般的かつ内容を適切に表す名称を選択した。

7 その他全般的事項

<国際地域学部 国際地域学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
該当なし	

- (注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。
- ・ 設置時の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については適宜項目を設けてください。（記入例参照）
 - ・ 「事前伺い」により設置された学部等については、当該項目を記載する必要はありません。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

【全学】福井大学高等教育推進センター FD・教育企画部門

【学部】福井大学国際地域学部教授会において、必要に応じてFD研修を実施した。

福井大学学術研究院教育・人文社会系部門総合グローバル領域ファカルティ・ディベロップメント委員会を設置し、FD研修の企画・実施を行う予定。

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

○高等教育推進センター FD・教育企画部門
年1回（各学部教員、事務職員含め9名）

○国際地域学部教授会
月に1回開催

○学術研究院教育・人文社会系部門総合グローバル領域ファカルティ・ディベロップメント委員会
必要に応じて開催

c 委員会の審議事項等

○高等教育推進センター FD・教育企画部門

- (1) カリキュラムの調査・分析・検討
- (2) 授業内容・方法の改善及び教材開発
- (3) GP等の教育プロジェクト
- (4) e-Learning・ICT利用教育及び双方向遠隔授業
- (5) 教育に係る地域連携及び国際連携
- (6) 教育に係る評価及び教育評価法の開発
- (7) その他センターが必要と認めた事項

○国際地域学部教授会

- (1)教育課程の編成・実施に関する事項
- (2)教育研究組織の教育研究上の目的及び編成に関する事項（教育に関する事項に限る。）
- (3)自己評価（教育に関する事項に限る。）に関する事項

○学術研究院教育・人文社会系部門総合グローバル領域ファカルティ・ディベロップメント委員会

- (1)FDの企画及び実施に関すること
- (2)FDに関する情報を収集し、本学部教員に提供すること
- (3)FDに関する講演会及び研修会等を企画し、実施すること
- (4)FDの自己点検・評価に関すること
- (5)その他FDに関すること

② 実施状況

a 実施内容

○高等教育推進センター FD・教育企画部門

- ・福井大学FD・SDシンポジウム（平成28年3月30日）

○国際地域学部専任教員会議

- ・国際地域学部におけるカリキュラム概要について（平成28年2月19日）

○国際地域学部教授会

- ・フィンドレー大学訪問報告（平成28年4月1日）

○学術研究院教育・人文社会系部門総合グローバル領域ファカルティ・ディベロップメント委員会

- ・平成28年10月以降にFD委員会が企画した研修を行う予定

b 実施方法

○高等教育推進センター FD・教育企画部門

事前に開催日時を周知し、可能な限り多くの教員が参加できるようにしている。

○国際地域学部教授会

原則、毎月第2金曜日に定例開催（8月は除く）する。その他、学部長が必要と認めたとき、又は、教授会構成員から要請があったとき臨時に開催する。

○学術研究院教育・人文社会系部門総合グローバル領域ファカルティ・ディベロップメント委員会

FD委員会が企画した研修については、事前に日程調整を行い、最も参加者の多い日時に開催する。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

○高等教育推進センター FD・教育企画部門（福井大学FD・SDシンポジウム）

- ・平成28年3月30日 60名参加

○国際地域学部専任教員会議

- ・平成28年2月10日 22名参加

○国際地域学部教授会

- ・平成28年4月1日 23名参加

○学術研究院教育・人文社会系部門総合グローバル領域ファカルティ・ディベロップメント委員会

- ・平成28年10月以降に開催予定 29名参加予定

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

実施結果を踏まえて、次年度以降の授業改善等に役立てている。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

各学期終了時に実施予定

b 教員や学生への公開状況、方法等

アンケートは一部公開とし、HPに掲載する

(注) ・ 「① a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。(記入例参照)

・ 「事前伺い」により設置された学部等については、本項目を記載する必要はありません。

(3) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

平成28年度に開設し順調に進んでいる。引き続き、設置の趣旨・目的に沿って教育・研究活動を計画通り実施していきたい。

② 自己点検・評価報告書

a 公表(予定)時期

・平成35年3月公表予定

b 公表方法

・自己点検・評価報告書を作成し、大学ホームページ上に公開予定

③ 認証評価を受ける計画

・平成33年度に評価機関の評価を受けるべく、学内で検討中

(注) ・ 設置時の計画の変更(又は未実施)の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

・ 「事前伺い」により設置された学部等については、本項目を記載する必要はありません。

(4) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書

a ホームページに公表の有無

(有) ・ (無)

b 公表時期(未公表の場合は予定時期)

(平成 28年 7月 1日)